



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail: daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL: 06-6354-3011

「ナルマダー河の子供たち」①

先日愚妻と広島県大崎上島に行ってきた。わが輩の東京下宿時代の親友“杉丸”の島である。瀬戸内海に浮かぶのどかな島である。

「レモンを送ってよ」

「何ゆうとるんじゃ。収穫に來い。ほんならやるけ！」

まるで広島ヤクザのような言い回しと風体だが、彼とは四年半も一緒だった。わが輩は文系（哲学）彼は理系、理論がかみ合わずしばしば平行線になった。全く文学的情緒のない男である。

ところで大崎上島の隣に生野島がある。山頭火は二度この島を訪れている。

暖かく草の枯れているなり 山頭火
（草が枯れとったら、寒いんじゃないのかのお）杉丸
死にそこのうて山は青くて 山頭火
（わからんのお。どこがええんじゃ） 杉丸

かくの如く無粋な男だが、最近ヨガを習いだした。インストラクターはまだ若い女性である。夫は老人介護施設で働いている。夫婦はいわゆるアイターン（I Turn）で、東京から移住してきた。海のみえる借家で“本然的”に暮らしている。面倒見の良い杉丸はなにくれとなく彼らをサポートしている。

わが輩も山頭火に倣って一句。

悪妻なら蹴るも易し^{やす}印度行 大魔王

もし、悪妻なら「お前なんかと居れるものか！」と言い放って出ていくのも易い。ところがどうだ。わが妻は優しすぎる。どうしてその妻を蹴り棄てて出奔できようか。

泣く子を縁側から蹴落とした西行のようにはいかぬものだ。

珍しい依頼があった。インドのある一カ所だけに行きたい。については同行を頼むというものであった。マーンダーター島である。インド人でも知る人はめったにいないであろう。島と言っても海に浮かぶ島ではない。インド中央部を東西に流れるナルマダー河の中州（長さ2km、幅1km）である。

オーンカレーシュワルにあるよ、と言ってもその地名を知るインド人も少ない。
さて、そこに何があり、何のために行くのか。興味あるだろう、読者諸氏よ。
ナルマダー河はわが輩にとってご縁の深い河である。数年前にわが輩の“奇跡”として書いた、あの親孝行な息子と盲目の老母が最初に巡礼した河である。ガンジス河とは印象が異なる。
解脱を求める者はガンジスに、修行を求める者はナルマダーへ、と言われている。
われらは修行に行ったのではない。ただただ、そこに在るためにだけに行ったのである。

オーンカレーシュワルは聖地である。由来が幾つかあるが、二つ紹介しておこう。
ナーラダ聖仙がヴィンディヤ山脈を訪れた。聖仙はヴィンディヤに「須弥山の方がデッカイよ！」と（余計なこと）を言った。（悔しい！と思った）ヴィンディヤは須弥山よりも高くなろうと欲して苦行した。オーンカレーシュワル神と共にシヴァ神に六ヶ月間祈った。その行為を喜んだシヴァ神は、「高くなっても良い」という恩恵をヴィンディヤに与えた。その結果どんどん高くなったために太陽と月の光を遮るようになってしまった。土地の者たちはアガ스티ア聖仙と妻に救いを求めた。彼らは巡礼に出かけるが「帰るまで高くなつてはいけない」とヴィンディヤに約束させた。彼らは二度と帰ってこなかった。

マーンダーター島は、日種族マーンダートリの名に由来する。ユヴァナーシュヴァ王の子である。王には子供がいなかった。聖仙たちは子宝に恵まれる儀式を執行した。そのとき祭壇の器に水を一杯にしておくように定められていた。夜中に、王は喉が渴いたのでその水を飲んでしまった。それには子宝の霊力があつた。一人の男の子が王の右脇から生まれた。赤子を養ってくれる人を探しているとインドラ神が現れ「彼は私をしゃぶるであろう」（マツ・アヤン・ダースティ）と言い、指をしゃぶらせた。それでマーンダートリと名付けられた。
（「インド神話伝説辞典」）

須弥山は仏教、ジャイナ教にも登場する。山が山に嫉妬するとは奇異な物語である。
（山でも嫉妬するのだから、感情を有する人間が他人を嫉むのは、全くの本能だ）

赤子が王の右脇から生まれたというのは興味ある物語である。男性が出産することはない。そこで困った神話の作者は右脇から産まれたことにしたのであろう。

そこで想起するのは釈迦を生んだ母・摩耶夫人のことである。彼女は女性であるが、聖なる人が産道を通ることはない。そこで右脇から産まれることになった。

とにかく、右は浄不浄の「浄」、剣をもつ腕「脇」はクシャトリヤ（武人）階級の象徴である。ちなみに、バラモン（司祭）は頭、ヴァイシャ（商人）は胴体を象徴とする。

また、日種族初代イクシュヴァーク王は、モンゴル系の民族であるとの説がある。彼の子孫がナルマダー河に小さな王国をつくったとも言われている。

釈迦も日種族、われら日本人もモンゴル系、と無理やり結び付けてみた。われらアジア人は、お尻にある蒙古斑で結びついている。

さてさて、我らはインド中央部インドール空港に着いた。
出迎えに来た人を見て、わが輩は瞬時に杉丸を連想した。
（広島ヤクザがいる！）

この人物は何者なのか、次回のご期待を乞う。